



arcserve®

オンプレミスからクラウドまで、あらゆるニーズに応える統合バックアップ・リカバリ ソリューション

Arcserve® Unified Data Protection

ニーズに応じた豊富な機能を持ち、目的に応じたバックアップを実現



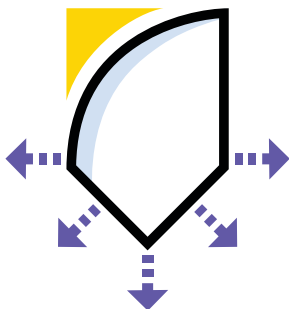
**バックアップを
誰でも手軽に、簡単に**
一人だけの情シスでも
運用やランサムウェア対策が簡単



**物理／仮想／クラウドも
まとめて管理ができる**
Windowsだけでなく
Linuxにも対応



**災害対策と業務継続が
できる**
遠隔地転送やマルウェア対策の
オフライン保管

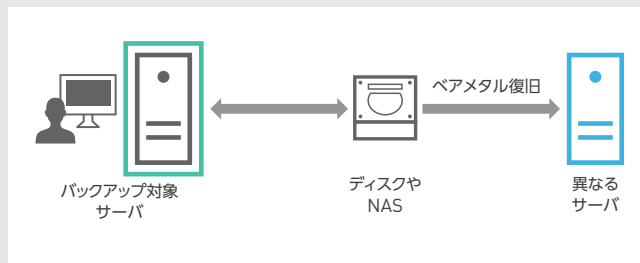


単一サーバから複雑な環境まで、 バックアップをもっと 「手軽」に「シンプル」に

Arcserve Unified Data Protection (UDP) は、Windows や Linux のスタンドアロンサーバはもちろん、システム全体をシンプルに管理し、バックアップ・リカバリできます。

単一サーバのバックアップ・リカバリ

サーバを「丸ごとバックアップ」し、「丸ごと戻す」ことができます。専門知識の無いユーザでもバックアップ／リカバリできる簡単さと運用負荷を軽減する高度な機能を標準で備えています。バックアップ対象は、Windows、Linux だけではなく、その上で稼働するアプリケーションやデータベースも無停止でバックアップできます。

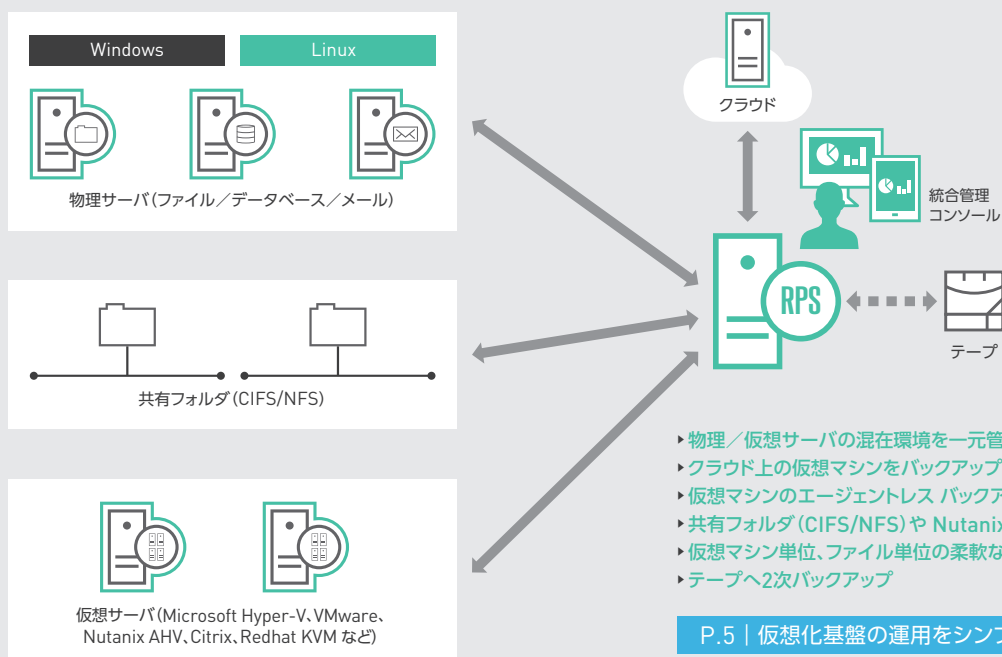


- ▶ 簡易な操作性
- ▶ わずか10分の簡単インストール
- ▶ 異なるサーバへの丸ごと復旧 (ペアメタル復旧)
- ▶ Microsoft Active Directory、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server、Microsoft SharePoint Server、Oracle Database
- ▶ フォルダ／ファイル単位、データベース単位復旧
- ▶ エクスプローラからのリストア

P.4 | 誰でも手軽に、簡単に

物理・仮想サーバ混在環境の統合バックアップ・リカバリ

企業内の物理サーバ、仮想サーバなど複雑化するシステム環境のバックアップ／リカバリ運用を統合して行うことができます。対象が多くても統合コンソールから同一の操作性で全てを管理することで、IT管理者の運用負荷を大幅に削減します。



- ▶ 物理／仮想サーバの混在環境を一元管理
- ▶ クラウド上の仮想マシンをバックアップ
- ▶ 仮想マシンのエージェントレス バックアップ
- ▶ 共有フォルダ (CIFS/NFS) や Nutanix Files のバックアップ
- ▶ 仮想マシン単位、ファイル単位の柔軟なリストア
- ▶ テープへ2次バックアップ

P.5 | 仮想化基盤の運用をシンプルに

コンポーネント

要件に併せて3つのコンポーネントを柔軟に配置できます。



エージェント

バックアップ対象サーバに導入します。エージェント単体でバックアップの運用管理を行います。



統合管理コンソール(サーバ)

複数台の保護対象(サーバ)のバックアップ/リカバリやエージェントレスのバックアップの統合管理を行うことができます。また、復旧ポイントサーバ(RPS)を管理します。

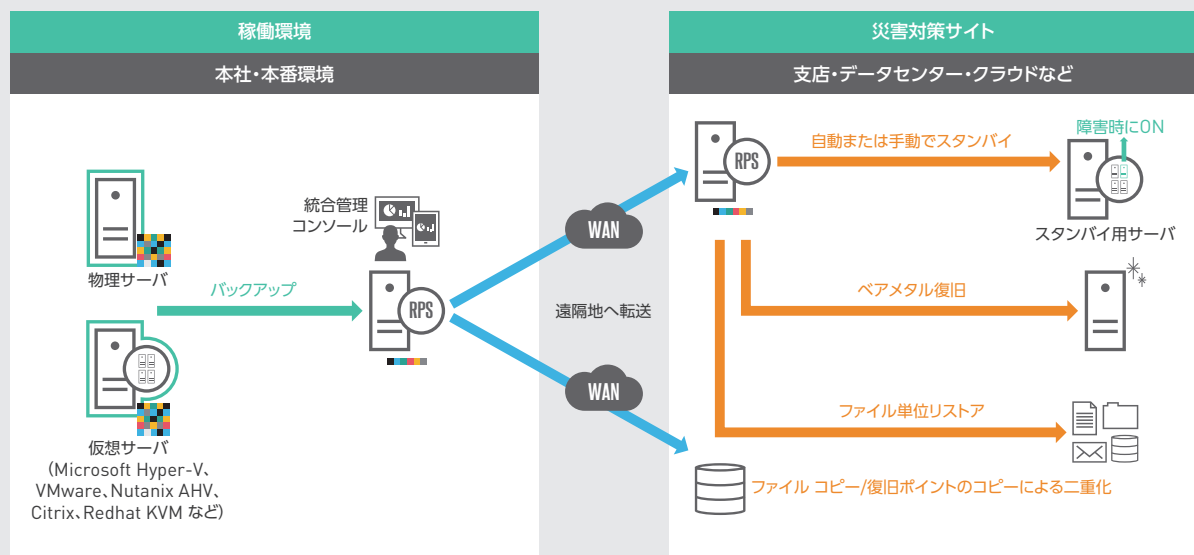


復旧ポイントサーバ(RPS)

バックアップデータの格納庫として重複排除や遠隔転送などを行います。

災害対策サイト／データセンターでのデータ保管／スタンバイ

災害発生時にも企業は業務を止めることができません。Arcserve UDP は、バックアップデータを遠隔地に転送したり、バックアップデータから仮想マシンを自動生成(スタンバイ)させ、リストアするよりも速い業務再開を実現する機能などを標準で搭載しています。さらに、導入が進むクラウドへのファイルコピーやクラウドサーバのバックアップなどにも対応します。



標準機能

- ▶ バックアップデータの重複排除
- ▶ バックアップデータの転送
- ▶ 仮想スタンバイサーバの自動・手動生成
- ▶ マルチテナントストレージ機能
- ▶ インスタント VM

Premium／Premium Plus エディション

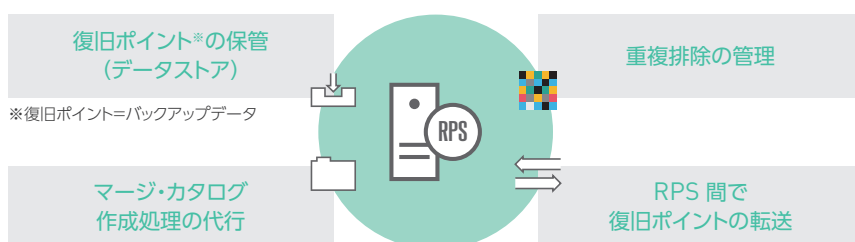
- ▶ リアルタイム ファイルサーバ複製
- ▶ リアルタイム アプリケーションデータ複製

P.5 | クラウド対応

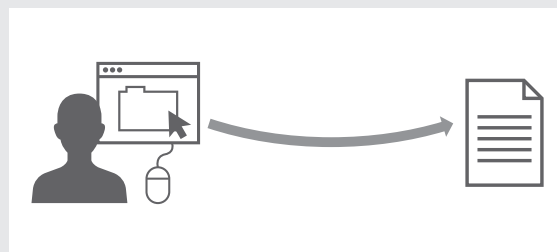
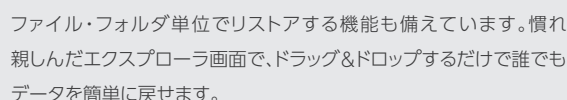
P.6 | 業務継続・災害対策

バックアップを効率化する復旧ポイントサーバ(RPS)で使える機能

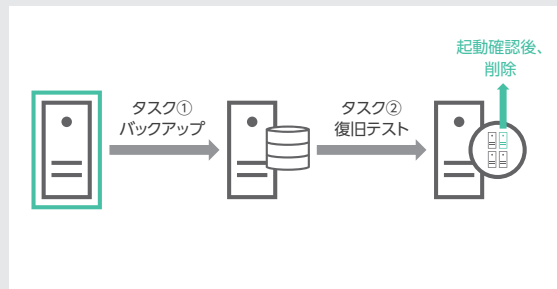
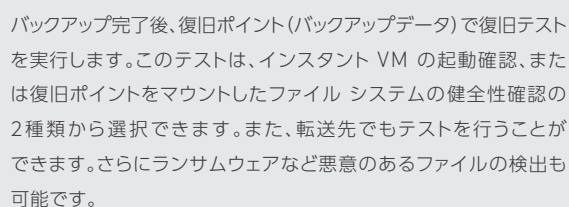
復旧ポイントサーバを導入することで、Windows や Linux など保護対象が多い環境のバックアップ/リカバリ、および災害対策を効率的に行えます。



OS、アプリケーション、データとシステム全体を簡単に「丸ごとバックアップし」、「丸ごと元に戻す」ことが可能です。専門的な知識や複雑な設定は一切必要ありません。



初回のフルバックアップ以降は、変更ブロックのみを増分バックアップし続けることでバックアップデータを削減し、バックアップ時間を短縮します。設定した世代数を超えると一番古い増分バックアップとフルバックアップを自動的に合成（マージ）するので、フルバックアップの取り直しが必要ありません。



※図は復旧ポイントの保存数を3個に設定した場合。初期設定では7個(最大1,440個)。

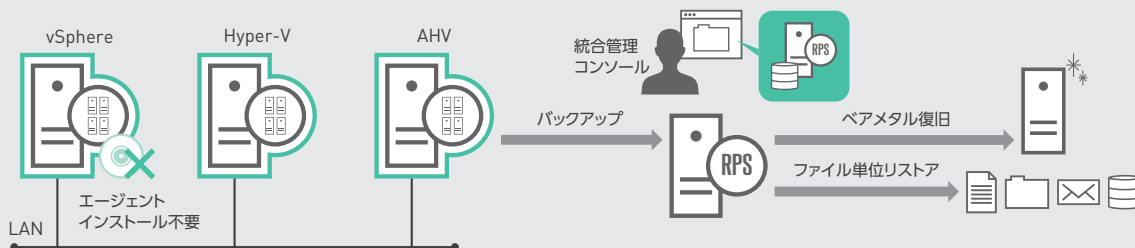
初心者でも使える管理画面になっています。さらに、仮想/物理、Windows/Linux、クラウドを同じ画面で管理できる統合管理コンソールやレポートで大規模環境のIT管理者も強力にサポートします。いずれの画面も WEB インターフェイスなので、操作する場所を選ばないこともポイントです。

The screenshot shows the Arcserve Backup console interface. A modal window titled 'Backup of Arcserve Backup' is open, displaying a list of backup jobs. The jobs are listed in a table with columns for 'Job Name', 'Status', 'Start Time', 'End Time', and 'Duration'. The 'Arcserve Backup' job is highlighted in blue. The background shows the main console with a list of backup jobs and a sidebar with navigation options.

仮想化基盤の運用をシンプルに

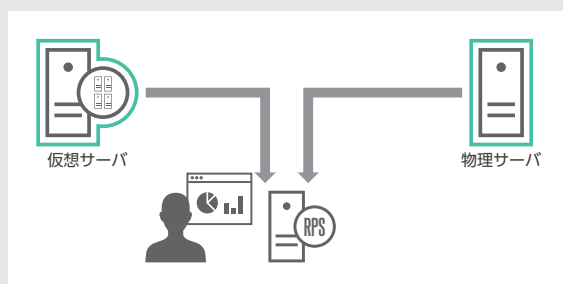
仮想化基盤側で設定が完了。エージェントレス・バックアップ

VMware vSphere 環境でも、Microsoft Hyper-V 環境や Nutanix AHV 環境でも、Windows と Linux の各仮想マシンにエージェントを導入することなく、バックアップが行えます。エージェントレスでありながら、継続的な増分バックアップや仮想マシンの中にあるファイルやフォルダだけをリストアすることもできます。



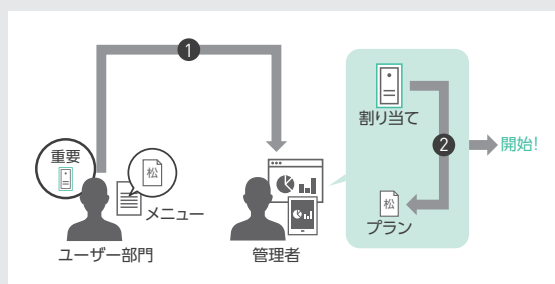
仮想も物理も 統合管理

仮想環境だけでなく、物理環境ももちろん統合してバックアップできます。さらに物理サーバと仮想マシンのバックアップをすべて同じ画面で管理できる点も Arcserve UDP の強みです。



バックアッププランのテンプレート化で 運用管理の負荷を軽減

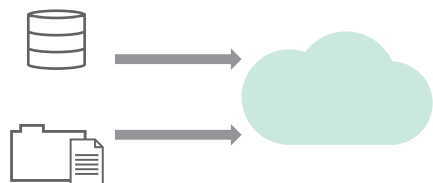
バックアップ方法をあらかじめメニュー化しておくことでシステムごとに要件を定めて設計する手間がなくなります。ユーザー部門に、システムの重要性に合わせてプランを選択してもらい、あとは対象システムを選択されたプランに割り当てただけでバックアップが開始できます。



クラウド対応

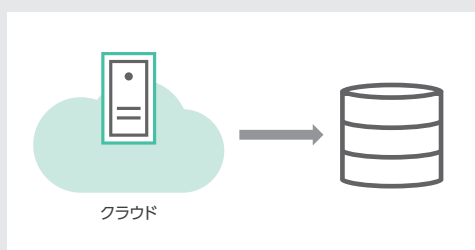
クラウドへ復旧ポイントコピー／ファイル コピー

復旧ポイントやバックアップデータから抽出したファイルをクラウドへコピーできます。オブジェクト ロックが有効なストレージに復旧ポイントをコピーすることでランサムウェア対策を強化できます。



クラウド上の仮想マシンをバックアップ

すべての仮想マシンにエージェントを導入してバックアップすることができます。またバックアップデータの転送先として利用できます。



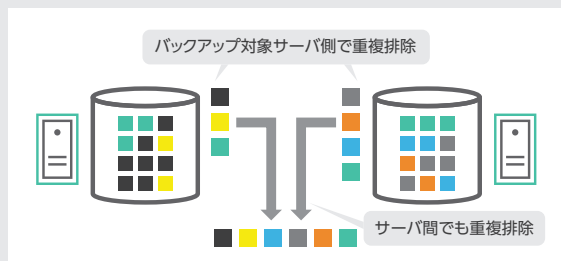
クラウド サーバ上への 仮想スタンバイ

Amazon EC2、Microsoft Azure および Google Cloud Platform (GCP) 上のインスタンスへスタンバイが作成できます。パブリッククラウドを使用した業務継続を強化できます。Windows のバックアップ環境をオンプレミスからクラウドへ簡単に移行することができます。



バックアップデータの重複排除

バックアップ対象サーバ(エージェント)側で重複を排除しバックアップします。重複排除済みのデータがネットワーク転送されます。また、バックアップデータ用のディスク使用量を大幅に削減することができます。



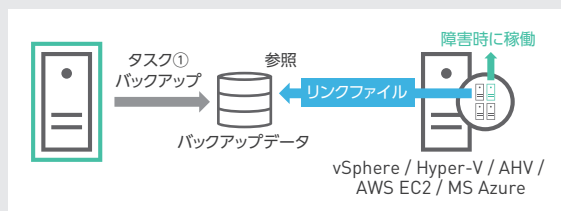
バックアップデータの遠隔転送

標準機能である復旧ポイントサーバを複数導入する事で、バックアップデータを効率よく遠隔地に複製できます。



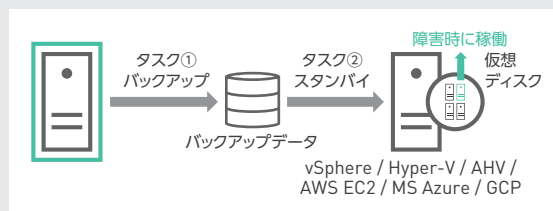
障害発生時にリカバリ不要で業務を素早く再開

障害発生時にウィザードを利用して「インスタント VM」を作成することで、仮想マシン経由でバックアップデータを参照して一時的に業務を再開することができます。リストアの時間を短縮できるためビジネスの機会損失を回避します。リモートヘインスタント VM する場合は、RPS が必要です。



スタンバイサーバを使って業務を迅速に再開

バックアッププランにて、あらかじめスタンバイ用の仮想基盤上にリストアしておきます。本番サーバ/サイトで障害や災害が発生したときには、仮想マシンを起動するだけで代替運用が可能です。スタンバイ用の仮想基盤を設定すれば災害時の継続運用も行えます。リモートへ仮想スタンバイする場合は、RPS が必要です。



※Windows 環境でご利用いただけます。

その他の豊富な機能

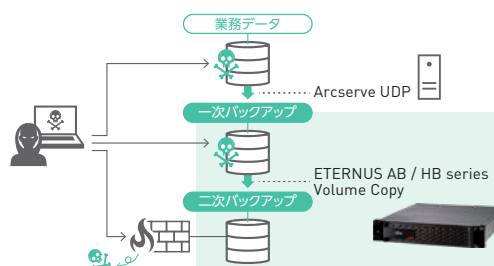
バックアップデータへのランサムウェア対策	テープの他、Amazon S3 オブジェクトロックや Nutanix Objects と連携した一定期間改ざんできない場所への二次バックアップが可能です。
アシュアードリカバリ	バックアップ データがリストア可能であることを手間をかけずに自動で確認し、結果をメールで通知できます。
コマンドラインインターフェース	ジョブの実行、監視を行う運用管理ツールとの連携を容易にします。コマンドからバックアップ/ リストアなどを実行できるため、ジョブネットに組み込んでシステム運用の一部としてバックアップを管理できます。
アシュアードセキュリティスキャン	バックアップ データの安全確認のため、データをマウントしてスキャンします。スキャンはリストア前の任意のタイミングで実行できるほか、バックアップ/レプリケート ジョブの後に定期的に行うこともできます。
スケジュール設定	日次・週次・月次での設定はもちろん、指定曜日の除外といったバックアップスケジュールの柔軟な設定が可能です。

ETERNUS AB/HB series と組み合わせたバックアップ データのランサムウェア対策

オンプレミス環境でのバックアップデータ改ざん防止

- ETERNUS AB/HB series を業務データのバックアップ先とし、Arcserve UDP で使用する一次バックアップ用と、ETERNUS AB/HB series のポリウムコピーで使用する二次バックアップ用の2種類のポリウムを割り当てます。
- Arcserve UDP により効率的に一次バックアップされたバックアップデータは、更に ETERNUS AB/HB series のポリウムコピーにより二次バックアップを実施します。
- 二次バックアップ先のポリウムは、ネットワークからアクセスできない場所にあるため、論理的なエアギャップの状態となり、バックアップデータへのウイルス感染を防止します。

詳細についてはこちらを参照ください、<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/storage/abhb/feature/abhb-udp.html>



Arcserve UDP ライセンス一覧(含まれる機能一覧)

バックアップ要件	エディション	サーバ用エディション			同梱ライセンス
		Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	
イメージ バックアップ /共有フォルダ(CIFS/NFS)のバックアップ		✓	✓	✓	Arcserve UDP
重複排除		✓	✓	✓	
バックアップデータの遠隔転送 ^{※1}		✓	✓	✓	
統合管理		✓	✓	✓	
仮想マシンのエージェントレスバックアップ		✓	✓	✓	
仮想スタンバイ		✓	✓	✓	
インスタント VM		✓	✓	✓	
VSS ライターを利用したオンライン バックアップ ^{※2}		✓	✓	✓	
アシュアード リカバリと SLA レポート		✓	✓	✓	
バックアップ データのテープ保管 ^{※3}		✓	✓	✓	Arcserve Backup
Oracle RMAN 方式のオンラインバックアップ			✓	✓	
役割ベースの管理			✓	✓	
アシュアード セキュリティ スキャン			✓	✓	
Arcserve Backup 全機能			✓	✓	
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製			✓	✓	Arcserve Replication/HA
Arcserve Replication アプリケーション サーバのデータ複製 ^{※4}				✓	
Arcserve High Availability ファイル/アプリケーション サーバの自動切替 ^{※4}				✓	

※1 遠隔地へのレプリケートによるバックアップデータの複製では、遠隔地側に統合管理コンソールと復旧ポイントサーバの機能を導入したマシンが必要です。 ※2 Microsoft 365 の保護はサポートしません。 ※3 Arcserve Backup のインストールが必要です。 ※4 エフサステクノロジーズでサポートされている機能・動作要件が対象です。

SupportDesk だからこそできる安心のサポート

ソフトウェア／ハードウェアを専門技術者が一括サポート

OSやハードウェアが関連する問題もトータルで対応

お客様環境では様々なハードウェア／ソフトウェアが動作しており、トラブルが発生した場合の問題の特定が困難です。エフサステクノロジーズの SupportDesk では、ハードウェア／ソフトウェア間の問題もエフサステクノロジーズ内で迅速に調査し、さらに Arcserve 社とも協力の上、問題の早期解決を支援いたします。

Arcserve社サポートから プラス1年の継続サポート

エフサステクノロジーズの SupportDesk なら、Arcserve 社のサポート期間が終了しても1年間は継続してサポートを受けることができます。

- Arcserve 社のサポート終了後でも、エフサステクノロジーズの豊富な事例で対応
- エフサステクノロジーズが Arcserve 社より手済みの修正プログラムを提供

トラブル事例

事象 不定期にテープ装置へのバックアップに失敗 **原因** テープ装置のファームウェアの不具合

SupportDesk の対応

ソフト技術者が Arcserve 側のログを解析。
テープ装置からのリターンコードが原因と推測。

↓
推測結果を基にソフト・ハード技術者間で
直接調査状況を共有し、連携して調査。

原因判明までに 約2日

一般のサポート(ソフト・ハードのサポートが別)

ログ解析は行いが、テープ装置が要因と推測できた時点で
ソフト会社の調査はそこで終了。

↓
お客様または担当SEがハード会社へ問い合わせ。

↓
お客様/担当SEを介すると調査内容がハード会社や
ソフト会社へ十分に伝わらず、何度もやりとりが発生。

原因判明までに 約14日

5年間のSupportDeskとアップグレード権が同梱された製品もございます

ライセンスの考え方

課金の対象となるのは、バックアップ対象のみです。バックアップ対象数またはバックアップ対象サーバのsocket数でライセンスを適用します。コンソールおよびRecovery Point Server (RPS:復旧ポイントサーバ) のライセンスは、不要です。



ライセンスの種類

サーバ台数

保護対象の物理サーバの台数分で課金されるライセンス体系です。物理マシンの他、Advanced Editionをクラウド上の仮想マシンで利用される場合は、こちらのライセンスとなります。

CPU socket数

保護対象サーバで利用されている CPU socket数分で課金されるライセンス体系です。物理マシンの他、仮想環境上の仮想マシンや、Premium Edition以上をクラウド上の仮想マシンで利用される場合は、こちらのライセンスとなります。

※Arcserve Replication and High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト) のsocketの合計数が必要です。

動作要件

詳細は弊社 Web をご覧ください。

対応 OS	アプリケーション	仮想環境 / クラウド
Windows Server 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Windows Storage Server 2016 / 2012 R2 / 2012 Windows Server IoT 2022 / 2019 for Storage Linux (RedHat他)	Microsoft Active Directory Microsoft Exchange Server Microsoft SQL Server Microsoft SharePoint Oracle※	VMware Microsoft Hyper-V Nutanix AHV Amazon EC2 Microsoft Azure

※Premium Edition以上では、Oracle RMANでのバックアップに対応 (Windows環境のみ。RAC構成は除く)

ラインアップ

5年間のSupportDeskとアップグレード権が同梱された製品もございます。

簡単さを追求したイメージバックアップソフトウェア Arcserve UDP		
サーバ単位	Windows 製品	Linux 製品
	Arcserve UDP 10 Advanced Edition - Server	Arcserve UDP 10 Advanced Edition - Server
CPU socket単位※1	Windows 製品	Linux 製品
	Arcserve UDP 10 Advanced Edition - Socket	Arcserve UDP 10 Advanced Edition - Socket
	Arcserve UDP 10 Advanced Edition for Nutanix - Socket	Arcserve UDP 10 Advanced Edition for Nutanix - Socket
	Arcserve UDP 10 Premium Edition - Socket	Arcserve UDP 10 Premium Edition - Socket
	Arcserve UDP 10 Premium Plus Edition - Socket	

※商品価格については、弊社営業または販売パートナーまでお問い合わせください。 ※商品には、1年間のアップグレード権がついています。アップグレード権の有効期間中に、新バージョンがリリースされた場合、最新のソフトウェアをご入手いただくことができます。 ※商品ご購入後の使用方法や技術的なお問い合わせは、エフサステクノロジーズのSupportDeskサービスをご活用ください。エフサステクノロジーズのSupportDeskでは、平日8:30~19:00 / 24時間365日のサービスをご用意しています。価格については弊社営業または販売パートナーへお問い合わせください。 ※1 仮想ホスト単位のライセンスで、仮想ホスト上の仮想マシンの数に制限はありません。クラウド上の仮想マシンではバックアップ対象のマシン毎に1ライセンスが必要です。

※ エフサステクノロジーズでの動作要件の詳細、最新情報はエフサステクノロジーズ公開サイトをご覧ください。

製品情報	
エフサステクノロジーズ公開サイト	https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/index.html
Arcserve Japan公開サイト	https://www.arcserve.com/jp/data-protection-solutions/arcserve-udp/

SupportDesk	
エフサステクノロジーズ公開サイト	https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/service-desk/
30日間無償トライアル	
Arcserve Japan公開サイト	https://www.arcserve.com/jp/free-backup-software-trial/

- すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。
- 製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
- このカタログに掲載されている内容については、改善などのため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

Copyright © 2025 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

製品についてのお問い合わせは

エフサステクノロジーズ株式会社

〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1番地5 JR川崎タワー
お問い合わせ <https://www.fujitsu.com/jp/fsas/contact/>